

# 主人を最後まで面倒を見てから入居しました。 これからも自分の足で歩き、もう一度もつと長い船旅がしたい

大阪(ゆうゆうの里) 西尾道子様(83歳) 平成26年7月 一人入居

一言でいうなら亭主閑白。でも何かをやり遂げると褒めてくれる人でした

子供はいなくて主人と二人きりの専業主婦でした。主人は一言でいうなら亭主閑白。お姉さん3人のいる長男で、家庭のことは何もできない人でした。「自分は外で頑張る、家の中は女の仕事」という考えでした。大変だったのは親戚つきあいや仏事に関すること。長男の嫁の立場で、私は親戚の皆さん全員をおもてなしをしてきました。今と違って、飾り付けや料理など全て

もらいました。また、生涯学習センターのサークルに入り、好きな日本史の勉強をしたり友達との交流を広げたり自由にさせてもらう時間もありました。

主人を亡くしてから支えてくれたのは、今は亡き親友でした

もともと私自身は樂觀的な性格なのですが、主人を亡くしてから一年は泣くことが多かったですね。お坊さんに相談したら「2、3年たてばご主人に『まだ迎える来なくていい』と思えるようになる」って言われました。でも辛い一年、助けになったのは学生時代の親友の存在でした。積極的に外に連れ出してくれ、時には旅行にも連れて行ってくれました。おかげで気持ちも前向きになり、パステル画やハンドベルの教室に通う楽しみも見つけることができました。パステル画教室では休憩時間のティータイムは、絵を描くより楽しかったかも知れません。ハンドベルは、喫茶店で友達を呼んで発表しました。そうして寂しさは解消して行きました。その親友も7年前に亡くなりましたが、年を

重ねるごとに感謝の念は増すばかりです。

一人になった時のことは相談していました

私たち夫婦には子供がいなかったのですが、老後のことは主人がいる時から考えていました。私は、一人になって、そのまま家に住んで親戚つきあいを続けるのは難しいと感じていました。そのことを正直に主人に伝えると、彼も心配していたのか「好きにしたらいい」と了承しました。ただし、主人は「夫の面倒は妻が最後までみる」という考えでしたので、私はそれを守り通し、最後は病院で亡くなるまで二年半ほど主人の面倒をみました。86歳でした。

そうして私のホーム選びが始まり、お墓参りに便利な京阪沿線に絞り見学を始めました。中でも大阪(ゆうゆうの里)は、利便性が良く、自立型にふさわしく自由に行動できるところが気に入りました。元気なうちは自分の足でいろんなところに出掛けたいです。加えてスタッフや入居者の表情がこやかでホッとしました。

これからも健康寿命を伸ばすこと、そしてもう一度、もつと長い船旅がしたい



入居して生活の不安がなくなりました。何かあれば電話ですぐに相談できます。一番嬉しかったのは、2、3年前に圧迫骨折した時のこと。入院中も職員が定期的にお見舞に来てくれ、丁寧に対応してもらいました。退院後も声をかけてもらって励みになりました。コミュニケーションが企画するイベントもとても楽しみです。皆さんどこかに出かけたり、美味しい食事に連れて行ってもらうたり本当に楽しい。

これからの目標は、健康で自立期を長く過ごすこと。いつも心穏やかに、人とのつながりも大切にしていきたい。それにできるだけ長く自分の足で歩きたい。かつてクイーン・エリザベス号で初めて船旅をしたことが忘れられません。あつという間に10日間が過ぎました。次はもつと長い間乗船したいです。そのために健康でいなくてはなりませんね。頑張ります。



クイーン・エリザベス号で初めての船旅をした思い出の一枚

家で行うのですが、頑張りました。主人は厳しい人でしたが、やり遂げたら褒めてくれる人でもあり、食事でも旅行でもいろんな所に行ったり行って